

# あきる野 多摩川学園 カンボジア校通信

\*NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会 (ASAP) Vol. 1 (2007.2)



## 「カンボジア通信」発刊にあたって

アンコール・ワット遺跡に近いトロク小学校で、就学率向上のため援助を続ける私たちは、さる 12 月、20 名の参加を得て、支援ツアーを無事実施しました。2006 年 3 月、5 教室からなる校舎「あきる野多摩川学園カンボジア校」を寄贈してから、3 回目の現地訪問となります。

建物の寄贈で終わることなく、現地の子どもたちのため、気長に教育の機会を整えることが、現在の私たちの目的です。計画スタート時には、何ができるのか、どのように援助を続けていくことが最善なのか、見当もつかない状況だったのですが、訪問を重ね、ようやく少しずつ現地の状況、支援の方向性が見えてきました。

こうした支援を続けられるのは、多くの皆さんのお力のおかげです。

これまで寄附金をはじめ様々な援助をいただいた皆さんには、感謝でいっぱいです。さらに息の長い支援のため、お寄せいただいた支援が現地でどのように役立っているのかを、きちんとお伝えすることがいよいよ大切になってきたと考えています。

そこでこの『カンボジア通信』を発行し、支援の状況をお伝えすることにしました。あわせてありのままのカンボジアの姿をお伝えできればと思います。何ごとも手さぐりのスタートですが、よろしく願います。 (事務局)

# 校舎贈呈までの歩み

アジアの子供達の就学を支援する会会長 長谷川 安年

カンボジアの子どもたちへの支援にご協力いただき、皆さんに心よりお礼申し上げます。これまで丁寧な説明をする余裕もない私たちを信頼し、ご芳志をお寄せいただいたことに、深い感謝を禁じ得ません。この機会にまず、校舎を贈呈するまでの経緯をお伝えしたいと思います。

私が「いつかカンボジア支援を」と思ったのは5年前、観光で同国を訪れた時の事です。アンコールワットを見学した後少し時間があき、妻とホテルの付近を散策しました。たまたま小学校のそばを通りかかったので近づいて見ると、その様子は大変ショックなものでした。吹けば飛ぶようなボロボロの校舎、ぼろをまとった裸足の子どもたち、近くのドブのような水溜りが水道がわり…。そのひどいありさまが自分の戦後体験と重なり、日本に帰ってからも、私の頭から離れませんでした。

そのときの思い出を、ロータリー・クラブの仲間で、私が理事長をつとめる多摩川幼稚園のかつてのご父兄でもあった池田五郎さんに話す機会が訪れたのは、2005年の9月のことでした。池田さんは30年ほどに及ぶ海外生活を経験され、特に隣国のタイに長く滞在なさった方です。「いつかカンボジアに支援をしたい」という話に大いに賛同してくださり、ご昵懇のタイ国の指導者の方を通して駐日カンボジア大使を紹介いただく、という話になりました。そして数日後、早くも大使とお会いする機会を得たのです。

プー・ソティレアット大使はなんと「来月、数日間帰国する際に同行いただければ、

現状をご覧にいます」とおっしゃり、それではということで2005年10月、池田さん夫妻と私ども夫婦は急きょ現地を訪ねることとなりました。

私たちはカンボジア国内でも就学率で最下位を争うシェム・リアップ州の小学校を見学しました。やはり根本的な障害は教室の不足でした。焼け石に水のようにも思えましたが、たとえ一校だけでも校舎を贈らなければ、と痛感させられました。



カンボジアの小学校の様子

帰国後、大使からもあらためて協力のお申し出をいただき、現地で訪ねたトロク小学校に校舎をひとつ建築する見通しが立ちました。2005年の11月、私ども夫婦は5教室の校舎の寄贈を決意し、現地業者と契約を交わし、建築に着手したのです。池田さんに思い出ばなしをしたわずか2ヵ月後のことでした。不思議な縁を感じずにはいられませんでした。

しかしいかにせん発展途上国のことでもあり、いくら大使の保証を受けて契約をしたといっても、きちんと工事が進んでいるのかとても心配でした。私は翌12月、信頼する八王子白百合幼稚園の高橋園長先生にお願いし、ふたりでカンボジアを再訪しました。実際の現場では、うれしいことに順調に工事が進んでおり、不安は吹き飛びました。

そして年が明けた2006年3月、予定どおり竣工との知らせが届いたのです。

同月の落成式には、池田さんご夫妻をはじめ日本から19名の支援者の方がたも

駆けつけ、カンボジア側からはプー・ソティレアット大使をはじめ、副総理、シェム・リアップ州知事、郡長、村長らの出席をいただき、村民の皆さんも総出のなか、校舎を贈呈することができました。トロク小学校の人びとは新しい校舎に、私共の幼稚園にちなんで「あきる野多摩川学園カンボジア校」と命名してくれました。

不慣れな事業にもかかわらず、この校舎の寄贈が驚くべき速さで進んだのは、ひとえに池田さんご夫妻のご尽力のおかげです。あらためてこれを銘記し、ひとこと感謝を述べたいと思います。



建替え前



「あきる野多摩川学園カンボジア校」



## 先生方のため「児童教育支援金制度」を始めました

・・・教育に専念し教師を続けてもらうために・・・

これまで現地の実状に触れる中で、様々な困難を突きつめる度に、いつも行きつく問題が「教育のための予算があまりにも少ない」ということです。

トロク小学校のあるバンテアイ・スレイ郡ルムチェツ町では、町内3か村の小学校2校の合計で、人件費をのぞく年間運営費が約3万円、児童一人当たりたった1.5ドルの予算です。私たちの校舎・教材・制服・文具などの寄贈も、この予算不足を補っていると言えます。

もうひとつ忘れてならないのが、先生がたの人件費の不足です。

先生方の月給は30ドル（およそ3,600円）。独身の先生でも国連が定める「貧困線」ギリギリの数字です。家族を養う先生はどうしてもアルバイトのことで頭がいっぱいになります。農村ではそうした機会さえ田植えや稲刈りなどに限られます。ちなみに現地では、日本語のツアーガイドが月額基本給120ドル（15,000円ほど）にくわえ、実働1日あたり25ドル（3,000円ほど）を支給されています。



そのうえ学校では給料の遅配が慢性化しています。昨年度の新任の先生は年度末

で一度も月給を渡されず、実家の両親や貧しい村民のほどこしで食いつなぎました。生活を考えれば、教師を続けることは自殺行為に近いと言わなければなりません。

そもそもいまのカンボジアには、かつてのポル・ポト政権が知識人を狙い打ちに殺戮したため、教育する力のある人材が深刻に不足しています。高等教育を受けた数すくない若者は、収入のよい職業に流れ、人を育て国を支える教育の現場はつねに沈滞しています。そこにあるのは、思ったような成果があがらず、人びとはいつまでも貧困が抜けだせない、という悪循環です。

こんな現状をうち破るには、何よりも先生がたを現場に定着させ、教える力を伸ばしてもらうことが大切だと、私たちは考えます。そこでトロク、タットゥム両校の先生がたに生活の保障を与え、教育に専念してもらえよう、月給をおぎなう「児童教育支援金」の支給を開始しました。支給額は月給と同額の1人月額30ドル（およそ3,600円）。あわせて月60ドルの現金収入は、先生方によれば「最低限生活していける水準」とのことです。

この12月の訪問で初めて、2006年9月から2007年2月までの6か月分を、全教員16名に支給しました。教育に専念し就学率の向上に努力してほしい、という私たちの切実な願いを理解してもらうため、支援金の趣旨をクメール語で印刷し、一人ひとりの先生に配りました。さらに受領証に署名してもらうだけでなく、台帳となる「受給者個人票」をつくり、先生がた全員に授業時間数や教歴などを詳しく申告してもらいました。またこの支援金は、トロク、タットゥム両校に在職する先生にかぎって支給するものであり、離職

離任のさいは残念ながら支給を打ち切ることも、文書で伝えました。

こうした現金のやりとりで支援の趣旨が忘れられると、使途が曖昧になるなど規律が崩れがちです。現地の人びとには制度や

規律にまで配慮する余裕はないので、将来にわたって間違いを防ぐことは援助側の責任になるでしょう。今回導入した「受給者個人票」などをもとに、訪問・支給の都度しっかり確認して行きたいと思います。



## 「カンボジア支援ツアー」のこれまで

2006年3月の校舎贈呈以来、すでに多くの皆さんが私たちの支援ミッションとともにカンボジアを訪ね、現地をご覧くださいました。旅行代金を各自ご負担のうえに、さらに1万円ずつのご芳志をお寄せ下さり、本当にありがたいことと感謝しています。

単なる観光旅行に参加するのではなく、ともにカンボジアの人びとを支えてくださる皆さんの篤志をあらわすため、私たちはこれを「カンボジア支援ツアー」と呼んでいます。現地では、ツアー参加者の皆さんは観光主体の日程、支援ミッションは

調査・物資の調達・援助の引渡しと、ふた手に分かれます。しかしツアー参加者の皆さんにも日程の中で一度は、われわれの支援するトロク小学校とその周辺の農村に立ち寄り、ありのままの姿をご覧くださいています。

支援の内容、購入金額など、皆さんの寄附の使い途については、監査を受け監督官庁に提出する会計報告でくわしくお知らせしますが、これまで3回の「支援ツアー」で実施したおもな支援について、簡単に報告します

### <第1回訪問>

\*2006年3月23日～27日《校舎竣工落成式》

\*参加者19名

\*トロク小学校視察、校舎贈呈式参加、援助品供与

\*支援内容：

飲料水用深井戸 11基

全教師用制服、全児童に落成記念品として文具

バレーボールなどの教材 ほか



### <第2回訪問>

\*2006年7月26日～30日

\*参加者5名

\*トロク・タットゥム両小学校視察、教員から聴取り調査

\*学校への教科書、図書室蔵書・キャビネットなどの供与

\*学校を通し児童へ、制服・ノート・筆記用具などの供与

\*父兄有志を集めた問題点の聴取り調査

\*支援内容：

教科書50セット・指導書6セット

図書室蔵書一式・キャビネット

児童用制服150着

ノート450冊など児童用文具、ほか



### <第3回訪問>

\*2006年12月21日～25日

\*参加者20名

\*トロク・タットゥム両小学校を視察、支援品供与

\*教員から聴取り、人口・児童数・授業時間など統計調査

\*村長・教育長・村議員・校長らとの会議

\*村民に文書で児童の就学の意義をよびかけ

\*教員16名に「支援金」(給与補助)を支給

\*支援内容：

トロク小学校 教材、文具 ほか

タットゥム小学校 教科書、教材、文具 ほか



# 今後の支援の方向について

## ■ NPO 認可に伴う名称変更について

「あきる野多摩川学園カンボジア校を育てる会」



「アジアの子どもたちの就学を支援する会」

私たちはこれまで「あきる野多摩川学園カンボジア校を育てる会」の名称で活動してきましたが、2006年11月21日、東京都に非営利活動特定法人（NPO）の設立を申請、受理されました。2007年2月または3月には認可が下りるものと期待しています。この申請の際名称について都の指導を受け、あらたに「アジアの子どもたちの就学を支援する会」とすることにしました。

## ■ タットム小学校からの 教室寄贈の申し入れについて

トロク小学校の分校が、昨年秋の新学年からタットム小学校として独立しました。同校の木の皮の様な物で作られた粗末な校舎は2教室しかなく、これまでは4年生まで各学年1学級が、二交代制で使っていました。しかし昨秋からは5年生が、さらに今秋からは6年生が加わるため、教室の絶対数が足りません。このため新任の校長先生から「新しく教室を寄贈していただけませんか」と相談を受けました。しかし事業規模が大きく、予算全体の見なおしが必要となるため即答できず、検討課題のひとつとして持ち帰りました。とはいえ日本からの援助が期待できるタットム小学校の校舎改築は、郡内でも後回しにされる懸念があり、回答を先送りするわけには行きません。寄贈するにせよしないにせよ、素早い意志決定が必要になりそうです

## ■ 支援の形：可能なかぎり現地購入を

援助経験が豊かな組織であれば、当然の知識だとは思いますが、これまでの3回の支援ミッションを通じて感じたことのひとつに、買えるものは現地で購入した方が良いということがあります。理由は大まかに言って3つあります。

- 1 本当に必要なもの、使いこなせる物を、すばやく支給できる
- 2 持ちこんだ外貨をつかうことで、現地の経済が潤う
- 3 日用品など多くの商品は、日本よりはるかに安く、送料がかからない

寄附となると皆さん「何か日本のものを」と考えてくださるのですが、篤志をお金で預かり、現地で援助に換えるのが最も効率的なのです。ただし文具など各家庭で余分な品物の寄附は、ぬくもりの伝わるすばらしい支援になります。今回も下記のとおり多摩川幼稚園で文具の寄附を募りましたが、今後もこうした活動には力を入れて行きたいと思います。

## ■ 教師・指導者の育成に向けて

今回の訪問で先生がたと話し合い、あらためて強く感じられたのは、しっかりした教師、指導者を育成することがもっとも重要ということです。これから理事・事務局の協議によって、最適の方法を探りたいと思います

# ダンボール二箱分の鉛筆を届けました

～多摩川幼稚園で園児・父母に文具の寄附を呼びかけました～

カンボジアでも最貧地域にあるトロク、タットゥム両校では、鉛筆さえそろえることのできない親が多く、これまでも支援ミッションの持参した文具がたいへん喜ばれました。このため今回も訪問に先だち、多摩川幼稚園の園児・父母に、各家庭で余っている鉛筆、消しゴム、色鉛筆、クレヨンの寄附を呼びかけました。未使用品に限定したにもかかわらず、みかん箱3箱分もの文具が集まり、支援ミッションが手荷物で現地に運びました。

色とりどりの文具に、日本の豊かさをありがたく思うとともに、多くの皆さんが親子で遠い外国の子どもたちの幸せを願ってくださることに、深く感謝しました。現地では教室で一人ひとりの子どもに直接手渡し、満面の笑顔で迎えられたことを報告します。

\*\*\*\*\* カンボジア写真館 \*\*\*\*\*



タットゥム校裏に建つ古い教室の様子



現地の一般的な家庭の様子



素敵な笑顔の先生と子供達



寄贈の本を真剣に読んでいる子供たち

\*\*\*\*\*



## 「学校」及び「NPO 法人」の名称について



### ■ 「あきる野多摩川学園カンボジア校」

カンボジア、シェム・リアップ州にある公立トロク小学校に、不足する校舎を長谷川個人として寄贈したことから、この教育支援活動がスタート致しました。その時カンボジアの慣例に従い、公立小学校であっても寄贈者の名前をそのまま学校名とする提案を受けましたが、長谷川の個人名よりは学校法人多摩川学園（幼稚園）にちなんだものという希望で「あきる野多摩川学園カンボジア校」としていただきました。

尚、既にカンボジアには「玉川学園」の名を冠した学校が存在していることから、混乱を防ぐため多摩川学園の所在地である「あきる野」を前につけました。

### ■ NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」

学校を支援するための組織として、当初「あきる野多摩川学園カンボジア校を育てる会」として発足しましたが、昨年11月に東京都に特定非営利活動法人（NPO 法人）の設立認証申請時の指導により名称を変更しました。3月5日に設立認証され正式に名称を変更して事業を引き継ぐこととなります。

#### 支援金の寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。  
毎月一定額でも結構ですし、一括のご寄付でもかまいません。

■ 郵便振替口座 00130-2-594647

『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■ 西武信用金庫 秋川支店 033

普通口座 1292601

口座名 『NPO 法人アジアの子供たちの就学を支援する会  
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

**\*注 両口座名が異なりますのでご注意ください**

## あきる野多摩川学園カンボジア校通信

ASAP 会報 Vol.1 2007.2

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会  
(省略 “ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地  
TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)  
FAX 042-550-2467

■発行人 長谷川 安年